

はじめに

自己紹介が今ごろになってしまって申し訳ありません。私は、埼玉県の日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加中の三宅優美です。初めての海外渡航、1年の滞在という事で、余裕がないまま3か月が過ぎてしまいました。拙いレポートではありますが、ご覧いただけたらうれしいです。

メキシコ人は“NO”と言うことが苦手らしく、「できない約束」をしてしまうことが結構あります。その結果、いくつもの約束をドタキャンされ、メキシコ人に対して軽い人間不信に陥っていました。新しい土地で慣れない文化に入って人間関係を作っていく難しさを実感しました。

そんな中、先日、メキシコに来て初めての誕生日を迎えました。色々ありながらもいつの間にか積み上げられていた小さな関係によって、いろいろな人からお祝いの言葉をいただきました。ドイツ人のクラスメートからはドイツの誕生日の歌を、イタリア・アメリカ・韓国のクラスメートからは、言葉は違ってもメロディは同じあのバースデーソングを生で聞かせてもらったりして、今まで経験したことのない豊かな一日を過ごすことが出来ました。祝ってくれた皆さんありがとうございました。気づかないところでできている人間関係が私を支えてくれていることを改めて認識し、とても感動しました。

うどんと箸の国際交流

同居している仲良しの UNAM (Universidad Nacional Autónoma de México メキシコ国立自治大学) の大学生に、一緒に和食を料理して、箸を使って食べてみないか持ち掛けたところ大喜びでこの提案に乗ってくれました。彼女が、大量にある人参をどうしても使いたいというので、いろいろメニューを考えました。人参を天婦羅にするのもおいしいのですが、住んでいる家には深めのフライパンまたは中華鍋がありません。某アプリでメニューを探すものの、メキシコではなかなか見つけることのできない「みりん」や「酒」などの調味料が必要なため悩みました。結局、人参を半月切りの薄切りにし、豚肉を一口サイズに切り、玉ねぎを串切りにして、灰汁を出し切るまでゆでました。普通の濃縮つゆを薄めて温め、茹で上げたうどんを入れ、最後にお湯を切った人参などを乗せました。豚汁の味噌なしうどんのような感じに仕上がりましたが、私も彼女も大満足な一品になりました。

箸の持ち方を教えるというのもなかなか大変なことでした。一般的に箸の持ち方というのは、鉛筆の持ち方に一本足すイメージだと思うのですが、これがなかなか難しいようです。この時、私に正しい箸の持ち方を教えてくれた両親に感謝しました。うどんを箸でつかむことは日本人でもなかなか難しいことですが、彼女は私の持ち方をじっと観察し、見事につかんで食べていました。私も彼女もうれしくて、その瞬間を写真に収めました。

まだまだお互い言葉が通じないときもありますが、次はメキシコの伝統料理で何か交流する機会があるといいなあと思つた一夜でした。



☆試行錯誤して作ったうどん☆



☆うどんを箸でつかめた感動の瞬間☆

各地散策①

メキシコは、11月1日と2日に「el día del Muertos(死者の日)」という、日本のお盆のようなお祭りが 있습니다。この日は例え平日でも休みになり、国中で、el día del Muertos(死者の日)の **OFRENDA** (オフレンダ。祭壇のようなもの)が飾られます。私は、この日、二日間かけて **Xochimilco** (ソチミルコ) と **Coyoacán** (コジョアカン)、そして **Colonia Roma** (ローマ地区) を散策しました。

Xochimilco (ソチミルコ) は大きな水路が行きかう世界文化遺産で、その名前はメキシコの先住民族 Nahuatl (ナワトゥル) 人の言葉で「花の野の土地」を意味します。Chinampa (チナンパ) という水草と泥でできた浮島が水路に浮かび、そこではたくさんの花が育てられていて、まさに「花の野の土地」といった景観です。恋人や娘の名前を付けた手漕ぎの遊覧船 Trajinera (トラヒネラ) がたくさん浮かび、その間を縫って食べ物やお酒を売っている人たちが水路はにぎわっていました。すれ違う Mariach (「マリアッチ」メキシコ独特の楽団様式。各メンバーはボタン飾りや透かし刺繍をほどこしたきらびやかな揃いの服を着用し、ソンブレロを被る) を奏でる船に乗る陽気な人たちとあいさつを交わしたりして、時間がゆっくり流れていくような空間でした。



☆Xochimilco(ソチミルコ)のTrajinera(トラヒネラ)とOFRENDA(オフレンダ) ☆
Coyoacán(コジョアカン)は、さすが観光地だけあって、Centro Coyoacán(コジョアカンの中央広場)は、人、人、人。大音量の音楽の流れる豪華なステージやOaxaca(オアハカ)州やChiapas(チアパス)州の食べ物などの露店街。Xochimilco(ソチミルコ)のにぎやかさとは違う雰囲気が漂っていました。その中でも一番の賑やかさを持っていたのは移動遊園地でした。子供たちの悲鳴と、大人たちの陽気な笑い声が印象的でした。



☆Centro Coyoacán(コジョアカンの中央広場)と移動遊園地☆

Colonia Roma(ローマ地区)は、高級住宅地といわれている地域の1つです。私のお気に入りの日本料理店に面した大通り Alvaro Obregón(アルバーロ・オブレゴン)に20以上のOFRENDA(オフレンダ)が飾られていました。それぞれのテイストが微妙に違っていたため、ここを散歩するだけで el día del Muertos(死者の日)の空気を満喫することが出来ました。

聞いた話では、ここのOFRENDA(オフレンダ)はそれぞれ違う人が祭られているそうです。一般的には西洋風の服をまとった男女の骸骨が並んでいることが多いそうですが、ここではこの地区出身の人やルチャ・リブレ(メキシコのプロレス)の有名な選手の物が目立っていました。OFRENDA(オフレンダ)も場所によって様々である事を学びました。



☆20以上あった OFRENDA (オフレンダ) の一部☆

各地散策②

周囲のほとんどの研修生がすでに行っていた Teotihuacán(テオティワカン)に、遅ればせながら行ってきました。どういう理由で作られたのか、Pirámide de la Luna(月のピラミッド)と Pirámide del Sol(太陽のピラミッド)、そして La calle de los Muertos(死者の道)がどんな風に配置されているのかを、日本の大学の授業で画像やビデオを通して見ていましたが、実際に目の前にするのは初めてでした。その大きいこと大きいこと。人が本当に蟻のように見えるほどピラミッドは背が高く、そして道は長く続いていました。空は曇っていましたが幸いにも激しい温度差にも襲われることはなく終始穏やかな時間が流れていました。正直なところ、1日で見するには体力が持ちません。今回は、大通りを散策するだけで疲れ果ててしまいました。次にチャンスがあれば、Pirámide del Sol(太陽のピラミッド)に上り、神殿もきっちり見学したいと思います。



☆Pirámide de la Luna(月のピラミッド)とそこから見えた景色☆



☆博物館にある、Teotihuacán(テオティワカン)の全貌模型☆

おわりに

来月（12月）は、メキシコでは特別なシーズンです。どんなことに遭遇することが出来るのか今からとても楽しみです。人とのかかわりを大切に、毎日一歩一歩、メキシコになじめるように努力していきたいと思っています。